

カゼのときに問題になる細菌

①インフルエンザ菌(ヒフ)

②肺炎球菌

③溶連菌

この3つ!

小児のカゼで問題となる細菌は3種類です。

上記の3種以外の細菌感染症はまれなので、

その都度対応していけばよいです。

保育所などで低年齢の子が集団生活を行うため①②の細菌が問題になります。



①②を長く保有することから、咳や鼻汁による飛沫感染で次々に感染していきます。

保育園、幼稚園児の保菌率は90%以上です。

保有者がインフルエンザウイルスやRSウイルスに感染すると重症化することは知られており、肺炎、細気管支炎、中耳炎などの合併症を起こすことがあります。

ウイルス感染症後の二次性細菌感染症、細菌による深部感染症を起こす可能性の問題もあります。

溶連菌は、保育所、幼稚園に通っている、お子さんの2-3割が保菌者です。

保菌率の高さに比べ、3歳未満の乳幼児にリウマチ熱、急性糸球体腎炎の発症がないことを鑑みると、この年齢では除菌のための治療は必要ないこととなります。

溶連菌を保有している状況は治療する必要がなく、痙攣を起こしている(強い咽頭痛、粘膜下出血、発熱)なら、咽頭炎と診断され治療開始となります。

小児の鉄欠乏性貧血

一年を通して相談があります。

女子に多く見られます。

貧血と言われている人のほとんどが鉄欠乏性貧血です。

問診、診察、血液検査で診断がつきます。

鉄分を補うための食事療法、鉄剤の内服を行います。

これは大人の場合と同じです。

鉄剤を内服すれば、血清鉄が増えて貧血は改善します。

貧血が改善すると、何かの病気だと思っていたお子さんが元気になったというエピソードもあります。

中学生でも生活習慣病健診が始まり、貧血以外に脂質代謝異常、高尿酸血症を指摘されたお子さんが相談に来ています。

体調を整えて、将来30代、40代の若い時に心血管異常が起きるリスクを下げておきたいところです。



お知らせ

岐阜市の漢方外来予定日 9月8日(土)、22日(土)

14:00-17:30 場所: 中島小児科(岐阜市鍵屋東町2-1)

※すべて「院外処方」となります。

小児夜間急病センター当番日 9月14日(金)

19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院にて

休診のお知らせ

9月13日(木)午前中、9月26日(水) 都合により休診します。